

2017年度 定時評議員会を開催しました

2017年6月22日(木)東京都生協連会館会議室において「2017年度 定時評議員会」を開催し、以下の決議事項について提案と審議が行われ、全議案とも満場一致で提案どおり承認可決されました。また、報告事項について確認されました。

- [議決事項] 第1号議案 2016年度事業報告及び決算(計算書類等)承認の件
第2号議案 公益目的支出計画実施報告書承認の件
第3号議案 理事及び監事選任の件
第4号議案 理事及び監事並びに顧問の報酬等決定の件

- [報告事項]・2017年度事業計画及び収支予算について
・この間の業務執行状況について

地域生活研究所 一般研究助成 2015年度の 研究成果報告会開催

2017年6月22日(木)東京都生協連会館会議室において「2015年度 地域生活研究所一般研究助成 研究成果報告会」を開催しました。

西田 穰常任理事の挨拶ののち、助成対象者3名から、助成案件について報告が行われ、それぞれの報告について質疑応答を行いました。終了後、堀越 栄子選考委員から講評をいただきました。報告案件および報告者は以下のとおりです。

□ 地域福祉における成年後見事業の可能性

—生活協同組合による代替的価値創造の取り組みを通して—

税所 真也さん<日本学術振興会特別研究員 PD(上智大学)>

□ 都市における食農コミュニティの構築に関する研究

青木 美紗さん<奈良女子大学 助教>

□ 共生・多様性の視点に立った家庭科における減災教育プログラムの開発

富田 道子さん<広島都市学園大学 子ども教育学部 准教授>



西田常任理事



税所さん



青木さん



富田さん



堀越選考委員

『まちと暮らし研究』25号 東京の農とみどり

『まちと暮らし研究』25号を発行しました。今号のテーマは『東京の農とみどり』といたしました。「東京の農とみどり」と言うと「なにも都会で農業や林業を考えなくても」という声があるかもしれません。東京といえども大部分は生活者の暮らしの場です。生活環境の基盤となる農地や森に囲まれていなければ、健康な生活は得られません。日々の仕事や生活に追われていても、少し近隣を歩けば畑もあり花もみどりもあって潤う。地場野菜の販売所もあって季節の喜びを感じられる。そういう環境を望まない人はいないでしょう。「まちと暮らし」にとって「農とみどり」は欠かすことが出来ない重要な要素です。またこのテーマは、生産者と消費者との連携の問題でもあります。後継者問題や無計画な地域開発など生産者の方々が直面している課題について、もう一方では消費者の生活や願いについて、相互に理解し合うことの重要性が言われています。今回の企画が、そういう連帯を深めるための一助になれば幸いです。



<主な内容>

・2017年生産緑地法改正に思う

(著者：敬称略)

青山 侖

・東京農業の現状とこれからの都市農業

後藤 光蔵

—都市農業振興基本法を受けて

・協同組合や自治体の連携による都市農業振興の可能性

青木 美紗

・市民参加で都市農業を守り育てる

富澤 廉

—生活クラブ農園・あきる野の実践活動

・まちに生きる—これからの東京の農業

北沢 俊春

・東京の区部と多摩地区の「緑地」の現状

田中 充

・森をつくる・人をつくる

鹿住 貴之

—JUON（樹恩）NETWORKの活動から

・東京にどنگりから木を育て、常緑広葉樹の「いのちの森」をつくろう！

吉岡 尚志

2015年度地域生活研究所一般研究助成 助成論文

・生活協同組合による成年後見事業の可能性

税所 真也

—「身上監護」と「生活支援」の連携

・都市における食農コミュニティの構築に関する研究

青木 美紗

・共生・多様性の視点に立った家庭科における減災教育プログラムの開発

富田 道子
小谷 教子
松岡 依里子
良 香織
齋藤 美保子
植田 幸子
鈴木 裕子

●頒価：500円(送料別)

●発行日：2017年6月20日

●判型／頁数：A5判／98頁

●発行：一般財団法人 地域生活研究所

問い合わせ先

一般財団法人 地域生活研究所 (担当：三浦)

TEL：03-6304-8665

FAX：03-3383-7840

福祉・医療分野における生協の存在と意義

プログラム

▶報告1

生活協同組合による高齢者福祉活動の意義を探る

—『くらしの助け合いの会』を事例として—

報告者：久保 ゆりえ（明治大学大学院博士後期課程）

討論者：竹内 明子（栃木県生協連会長理事・社会福祉法人ふれあいコープ理事長）

▶報告2

医療生協における国際活動の動向と国際医療協同組合フォーラムのインパクト

報告者：山下 智佳（保健医療経営大学准教授）

討論者：吉岡 尚志（東京都生協連）

2017年5月15日（月）、公開研究会「福祉・医療分野における生協の存在と意義」を公益財団法人生協総合研究所との共催で開催しました。この研究会は生協総合研究所の生協論レビュー研究会の公開研究会としても位置付けられています。

前半では明治大学大学院商学研究科博士後期課程の久保ゆりえさんから「生活協同組合による高齢者福祉活動の意義を探る—『くらしの助け合いの会』を事例として—」と題してご報告をいただきました。生協の「くらしの助け合いの会」に関連する文献などをサーベイしたうえで、それがどのような社会的文脈の中で発展し、どのように評価されてきたのかを紹介いただきました。そして、その意義や課題などについて議論を提起いただきました。



久保ゆりえさん



山下智佳さん

後半では保健医療経営大学准教授の山下智佳さんより「医療生協における国際活動の動向と国際医療協同組合フォーラムのインパクト」と題して報告をいただきました。1990年代前半に開催された国際医療協同組合フォーラムについて、医療生協が中心となってその開催を実現した経緯などを紹介したうえで、このフォーラムの開催によって、それまで「先進的な医療の学習」であった医療生協の国際活動がアジア地域などとの「交流」にシフトしていったことを指摘いただきました。

今回の研究会では久保報告に対し栃木県生協連の会長理事で社会福祉法人ふれあいコープ理事長でもある竹内明子さんから、山下報告には当時、日生協医療部会の事務局で国際交流活動を担当していた東京都生協連の吉岡尚志さんから実践家の立場からコメントをいただきました。

当日は40名の参加者があり、報告後、質疑と議論を行いました。参加者からは特に生協の現場にいる方から、それぞれの活動の現状についての報告や他の事業体との差別化をどうはかるかなどの課題について質問が出たほか、研究者として「文献のレビュー」を超えてどのように研究を進めていくのかといった質問があり、活発な議論が行われました。終了後のアンケートでも、地域生協と医療生協が相互に、また生協の実践家が研究者のことを知るきっかけになったという感想が見られました。参加した研究者からも実践家と交流することの必要性を痛感する感想が聞かれました。